



進学先

和歌山県立 医科大学

医学部

渡邊凛人さん

桐蔭高校

インタビュアー

湯川晃至
(AC 県庁前校カウンセリングスタッフ)

医学部を目指したきっかけは何だった？

渡 邊： 僕には生まれつき持病があって定期的に通院しているのですが、不安を感じる時も、担当の医師の先生が、症状や、今後についてわかりやすく説明してくださって。その姿に憧れて医師を目指そうと思い始めました。将来はへき地医療に貢献したいと考えていたので、『地域医療枠※』での進学を目指すようになりました。

※卒業後9年間、和歌山県のへき地医療に携わる。推薦入試での募集のみ。

部活は、科学部と生徒会執行部の兼部だったね。勉強とのバランスは？

渡 邊： 科学部は毎日活動していたので、自分の中でしっかり時間を決めて。この時間は部活を全力で、この時間は勉強、しっかり気持ちを切り替えて、時間ごとに取り組むことを意識していました。1年の時は受験勉強っていうより、まずは推薦入試に必要な評定を取るために定期テストの勉強に重きを置きました。テストの時は、部活のことは一旦置いて勉強に全力注ぐ、気持ちを切り替えてテスト2週間前からしっかり勉強するっていう感じで。

1～2年の間のクラスライブはどうだった？

渡 邊： ハイレベル英語(久保田先生)は、1年の間は文法をきちんと理解できました。2年は辞書を引いたり友達の意見を聞きながら入試問題に取り組み、思考力や応用力を養う良い時間だったと思います。長文の和訳では文法や単

語がきちんと理解できているかを確認できました。毎週の単語テストはきつかったけど、そのおかげで多くの単語を覚えられたのでとてもよかったです。

ハイレベル数学(青石芳樹先生)は、学校の授業の先取りで、レベルの高い内容まで扱ってくれたので非常に役立ちました。生徒のことをよく考えてくださる先生で、わかりやすく説明をしてくれたため、内容もきちんと理解することができました。とても熱意のある先生で毎授業集中して学習に取り組めたと思います。

湯 川： 論理国語と速読聴英語はどうだった？

渡 邊： 論理国語は、理系に進むつもりだったので、国語はいらないかなって最初は思ってたんですけど、でも共通テストにも繋がってくるし、読み方、問題の解き方を船口先生のわかりやすい授業で勉強できました。速読聴英語は、家でも受けられるように、タブレットにアプリを入れてやってる時期もあって。“英語”を読むスピードがすごく上がったと思います。扱う長文は、時事ネタを入れてくれているので、英語以外の教科にも繋がって良かったです。

受験勉強を始めたのはいつ頃でしたか？

渡 邊： 2年の3学期ぐらいかな。そのぐらいの時期に、自分は本当に医学部を目指すのか、ということをしごく迷い始めて。大阪大の放射線技術科も考えたんですけど…。でも悩んだ結果、やっぱり自分は医師として働きたいと考えるようになって、医学部を目指して勉強しました。

受験勉強で悩んだ教科はありましたか？

渡 邊： 理科です。物理、化学どちらにもすごく苦しめられました。特に化学には…。知識の理解から全然できてなかったの、そこからしっかり叩き上げないといけなかった、というところで苦しみました。

湯 川： それで、サテラインを受け始めたね。

渡 邊： 湯川先生に化学について相談したら、亀田先生の授業を受けて頑張ろう、っていう話になって。2年の夏から亀田先生の「標準化学」を受け始めました。板書はカラフルで、物質の色とかも書いてくれるから、色鉛筆を用いてわかりやすくノートを作るため、頭に入ってきたやすい。授業の内容とかも工夫されてて、1コマ90分の授業でも全然飽きない授業でした。

湯 川： サテラインは英語も受けてくれたね。

渡 邊： 西川先生の「English Links」を。長文読解がメインですが、間に英作文をはさんだり文法の確認をしてくれたりしたので、とてもわかりやすい授業だった。英作文は基礎的なものから実践的なものまで幅広く扱ってくれるので、英作文の力も身につけることができて。英文と英文のつながりを丁寧に解説してくれるので、長文の読み方を学べました。

高3のクラスライブはどうでしたか？

渡 邊： 共通テスト攻略の国語(長沼先生)と英語(吉田先生)、難関大二次対策英語(吉田先生)を受けていました。共通テスト攻略国語は、すごく授業に工夫があって。もともと国語に対して苦手意識があったんですけど、解き方を1から教えてくださったので、得点力アップにつながったので、長沼先生の授業を受けて本当に良かったです。共通テスト攻略英語は、限られた時間で長文を読み解くために必要なスキルや力を1から丁寧に教えてもらいました。最初は全然成績が伸びなかったんですけど、徐々に点数がとれるように。授業は活気があって、積極的に勉強したいと思えるような話をしてくださったので、とても良い授業だったと思います。授業の後のミニ講座も長文読解の勉強に非常に役立ちました。

やって良かった勉強方法ありますか？

渡 邊： やっぱり時間を決めた、ということですかね。長時間ダラダラやっても全然頭に入っていないので、短く区切って…例えば50分とか60分ごとに。共通テストだったら60分の科目があるんで、60分区切りで。『60分勉強して、10分休憩』というようなサイクルで、短い時間で集中して質の高い勉強をする、という方法が僕には良かったと思います。

受験勉強で一番辛かった時期はいつ頃だった？

渡 邊： 共通テストの1ヶ月前あたりですね。体力的にも精神的にも辛かったです。なかなか思うように点数が伸びなくて。あと1ヶ月で間に合うのか？！っていうプレッシャーにもやられ…。でも絶対伸びてくると信じて、諦めずに取り組むことで不安を取り除くようにしました。受験で苦しい経験をしない人はいないと思うので、友達に相談するということもとても大切だと思います。あとは僕はやっぱり『医者になりたい』っていう思いがあったので、医者になった自分を想像しながら奮い立たせていました。息抜きは、僕はずっと音楽を聴いてました。音楽聴いてから、勉強に取り掛かる。

湯 川： 共通テスト本番は緊張はした？

渡 邊： 僕は緊張するタイプなので、試験が始まるまでは緊張しました。でも、いざ試験が始まってみたらそんなこともなくて。ほとんど普段通り取り組めたかな、と。面接ももちろん緊張しましたが、すごくフラットな雰囲気。面接というより普段の会話みたいな感じでした。だから、自分の言いたいことは全部言えました。むしろ学校の面接練習の方が厳しかったです(笑)

湯 川： 大学受験を振り返って、今思うことは？

渡 邊： 中学受験以来6年ぶりの受験で、その時は不合格でも地元の中学校へ通うという道があったけど、今回の大学受験ってこの先の人生を決める1つの分岐点になると思って。たった1点、されど1点で合否の先の人生が大きく変わるので、今までにない重みがあったと思います。受験に向けて努力し続けたということは将来につながるとも良い経験になりました。周りの人の支えのおかげで乗り越えられた。湯川先生に色々声をかけてもらったり、学校の先生にも親にも色々言ってもらったり、それが非常に大きな支えになっていました。

アカデミーキャンパスはどんな場所でしたか。

渡 邊： 普段のコミュニケーションもそうですが、思うように点数が取れなくて苦しい時に、ちょっと話したり、色々声をかけてもらえたりして。心の支えになってもらったので感謝しています。科学部の山本先輩(ACターミナル卒/大阪公立大進学/山本瑞起さん)からも、『偏差値は個人戦だけど、受験は団体戦』という話をしてもらっていたので、ACで仲間と共に勉強できたことはとても有意義なものでした。

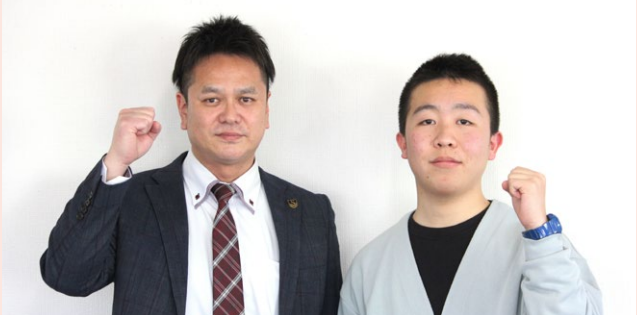
湯 川： ありがとうございます。最後に、アカデミーの後輩のみんなへのメッセージをお願いします。

渡 邊： 受験勉強は辛くなることがあると思うんですけど、そんな時でも、辛い自分を受け入れて、少し勉強から離れてみるのもいいと思います。僕は自分の勉強机の前に『頑張るとは、何かのために必要な努力と必要な我慢をすること』っていう山下代表の言葉を書いた紙を貼って勉強してたんです。大学に合格したければ、今は受験勉強に全力を尽くして、遊ぶことは我慢しなければいけないって。そのことを心に留めておきながら、最後の最後まで諦めずに頑張ってほしいと思います。

大学生活が楽しみだね。どんなビジョンがありますか？

渡 邊： 次は6年後の国家試験に向けて勉強していかないといけないかな、と。でも、人生で1回しかない大学生活なんで、サークル活動やバイトとかもやって、しっかり楽しみたいと思います！中高で続けてきたモデルロケットなどの宇宙教育活動にも引き続き取り組んでいきたいと考えています。

編集後記 ～インタビューを終えて～



渡邊君は、一言でいうと、“超”が付くくらい真面目な生徒でした。科学部と生徒会の兼部で、こちらから見ても日々多忙な毎日を送っていました。しかし、コツコツと積み重ねることが強みだったこともあり、課題等与えられたことは必ずこなし、まずは高1・高2としっかり定期考査に全力を注いで、結果を出してきました。そして引退後、完全に受験勉強に切り替わった彼の頑張りは本当に目を見張るようなものでした。自発的・自律的に行動することが増え、サテライン(映像授業)も計画的に受講するなど、理想的な受験生に切り替わっていきました。医学部を目指していましたが、当初は決して成績上位ということではなく、思うような結果が出なかったり、進路にも悩んでいた時もありました。事務所で気持ちを吐き出しながら、少しすっきりしてまた勉強に向かっていく姿を見守ってきました。素直に自分と向き合おうとする人間性は、彼の魅力であり、強さでもありました。こちらの“合格させたい”“必ず良い医者になれる”という想いもより一層強くなりました。“絶対に和歌山県立医科大学に合格する”もちろん自分の為でもあります。ご両親や周りの人のことも考え、合格するのだという強い意志の下、愚直に行動し、成長し、見事合格を勝ち取った渡邊君に感謝します。大学に進み、医学の勉強も大変だとは思いますが、より一層魅力的な人間になっていくのを楽しみにしています！今後も頑張ってください！

AC県庁前校カウンセリングスタッフ 湯川晃至